

令和4年度 地区懇談会
(登別温泉地区、登別地区) 議事録 (概要)

令和4年10月5日(水) 14:00~15:30

婦人センター 出席者22名

4 市からの情報提供事項：北海道太平洋沿岸における津波被害想定について

意見：

- ・Jアラートのサイレンが変わり非常に聞きづらい。出力が足りないように感じる。
- ・消防の旧登別支署横のスピーカーからのサイレンが聞こえないため検証してほしい。

回答：総務部

- ・先日のJアラート時は雨が強く降っていたため、サイレンが聞こえづらいという話が他の地区でもあった。
- ・スピーカーについては、検証し不足があれば改修を進める。

質問：

- ・津波災害から避難した高台には、いつまで避難していなければいけないのか。また、避難の解除の判断は誰がするのか。
- ・案内の方法は、サイレンや放送を流すのか、あるいはヘリコプターなのか。

回答：総務部

- ・津波警報が出された場合には高台へ避難をお願いしているが、その後の行動については、状況にもよるが、基本的に職員が避難場所へ行き案内する形になるかと思う。
- ・災害の状況により、なかなか案内をすることができないことも考えられるため、周知の方法は防災無線を活用することを第一に考えている。防災無線で連絡し、高台へ職員が向かうような方法を取るよう考えている。また市公式ウェブサイトやスマートフォンを使ったLINEなどでの周知も考えている。

5 市役所新庁舎の建設及び現庁舎の跡地利用について

意見：

- ・市役所新庁舎は2階建ての低層階と説明を受けたが、ある程度の高さがなければ建物が見えないのではないかと。市役所新庁舎は登別市のシンボルとなるため、後世に残るような庁舎を検討してもらいたい。

意見：

- ・北海道が想定する登別市の津波は最大で12mと言われているが、市役所新庁舎が位置する場所は海拔何mなのか。
- ・市役所新庁舎は現庁舎よりどれくらい広くなるのか。現在の広さも教えてほしい。

回答：総務部

- ・市役所新庁舎建設地の高さは13.8mで、津波の被害を受けない敷地の高さになっている。
- ・現庁舎の敷地面積はおよそ6,600㎡。
- ・新庁舎は計画当初7,600㎡を検討していたが、現在の物価高騰等の影響を受け、できるだけ削減しスマートにしたいと考えており、現時点では7,100㎡程度を目標に設計を進めている。
- ・現庁舎よりは広くなるが、物価高騰等の影響もあるため、去年からペーパーレスを図るため電子決裁システムを導入した。今年度からは紙文書のデータ化に取り組み、書庫をできるだけ圧縮するなど、面積の削減に取り組んでいるところである。

質問：

- ・職員駐車場について、どのように考えているのか。
- ・新庁舎が高台に位置することから、交通障害などが生じるのではないか。

回答：総務部

- ・新庁舎敷地内に職員の通勤用の駐車場の整備は行わない予定。
- ・学校給食センターの裏に市有地があり、そこを活用できないか検討している。
- ・職員駐車場は約250台程度必要になるため、全て市の土地だけでは確保ができないことから、周辺の民間の土地を借りなければ駐車場の確保はできない状況にある。新庁舎周辺の敷地を確保しよう検討を進める。
- ・駐車場を1箇所に集約してしまうと、交通量が多くなり渋滞等の問題が生じてしまうため、その辺は配慮しながら検討を進める。

6 登別市・白老町 令和12年度以降のごみ処理施設について

意見：

- ・まず先にやらなければならないことは、ごみの分別である。
- ・ごみの分別をどのように行うかによって次の施設を建てたときの寿命が伸びてくるのであって、新設の話をするよりも、今の施設でどのようにすると分別がより良くなるのかを話し合うべきである。
- ・コンポストについて、何十年も取り組んでいることだが失敗が多い。ねずみの侵入を防ぐために一番下のところに鉄の網を敷くことや、おがくずをいれるとごみ処理の促進ができる。市民にもやり方の説明を行い徹底すると良いと思う。

回答：市民生活部

- ・分別の問題について、管理されている皆さんが大変苦勞していることを重々承知している。今さらにお問い合わせしようとしているプラスチックの分別についても、少し負担が増えてしまうかと思うが、市の方でもしっかり周知を行うことが大事だと考えている。クリ

ーンリーダーの方などにも指導や周知のお手伝いをしていただきながら行いたいと考えている

- ・コンポストについてもいろいろなやり方があり、機械的に行うという新しいやり方もある。生ごみの分別はできなくても、それぞれの家庭や企業で少しでも生ごみを減らす努力を今後お願いしていきたいと考えている。

意見：

- ・分別が増えるのは大変だと思うが、分別の方法をしっかりと教えていただければ、私の町内会で取り組むことは可能である。
- ・今回の社会実験の実施について、私の町内会では水道の関係で行うことができなかったが、町内会の人に聞いてみたところ、お年寄りが多く、生ごみを分別してもコンポストまで持って行くことが一苦勞であるとの意見があった。
- ・生ごみを分別し、今あるごみステーションに置けば、クリンクルセンターに持って行ってもらえるようにする。このような方法にすると賛同を得られるのではないかと思うので検討してほしい。

意見：

- ・現在のごみ処理施設では市民プールへ余熱の供給を行っているが、将来的に今後どのような施設に余熱を供給していくことができるかも検討してもらいたい。

7 地域の共通課題についての懇談：太陽光発電所建設（メガソーラー）について

質問：

- ・この件については、令和3年度の地区懇談会や開催後にカント・レラで登別温泉地区連合町内会と市長、副市長、市関係部長と協議し、メガソーラー地形要望地域エリアの確認、土砂災害と災害抑制の観点や、景観条例等による美しい緑を守る観点など、北海道と意見交換事務を進めると言っていたが、その後の進捗情報を聞きたい。

回答：観光経済部

- ・昨年のカント・レラでの協議後、市長が北海道を訪問し、メガソーラーの規制、景観を守るための禁止区域の設定などについて、意見交換を行っている。
- ・メガソーラーの設置については、景観法など各種法令ごとに許可申請を行うものでそれぞれ法令の求める要件があり、その法令ごとに事務手続きが行われることになる。
- ・北海道においても、各種法令に関する事務を管轄する部署はあるが、メガソーラー設置そのものの許認可等を行う部署はないとのことで、北海道としても規制に関する対応は困難だということであった。

質問：

- ・現在、登別温泉に設置されているソーラーパネルだが、一部破損しているものが見られる。市ではそのことを把握しているのか。またどこの会社のものか把握しているか。

回答：観光経済部

- ・市として把握は行っていない。
- ・ソーラーパネルを設置している会社については、国でも公表しており、市も一定程度、情報をまとめているので把握することは可能と思われる。

質問：

- ・破損しているものについて、指導などは行わないのか。

回答：観光経済部

- ・破損しているものを市から指導することはできないが、破損しているものが危険であったり、何らかの被害が及んだりするような状況があれば、市から連絡することは可能と思う。

質問：

- ・メガソーラーの設置について、市民の安全安心の確保、地域住民への事前説明を盛り込んだガイドライン策定は進んでいるか。

回答：観光経済部

- ・ガイドラインの作成については、地域説明や災害、景観自然環境の懸念など、多岐に渡る検討が必要となるため、市の各担当部署で構成する横断組織において内容等の検討を行い、素案については完成しているという状況。

質問：

- ・ガイドライン作成において、他市町村の条例策定の状況などを全国的なものでおさえているか伺いたい。

回答：観光経済部

- ・道内で再生可能エネルギー、規制や指導も含めた条例制定の状況について、現在、太陽光と再生可能エネルギーの条例を制定しているのが9町村、風力発電が1市、地熱資源の保護が2町ある。ただ、同じような規制ないし指導も含めた条例の制定の有無については、正確な数字は押さえていないが、全国で200～300近くあったかと思う。

質問：

- ・条例制定は必要であるか。

回答：観光経済部

- ・現状、ガイドラインを策定した上で、少し様子を見たいと思っている。
- ・例えば、ガイドラインを作成し、事業者に対して、このようなガイドラインを持っているという中で様子を見ながら、それでも条例制定が必要であれば、市として考えていきたいと思っている。

7 地域の共通課題についての懇談：登別地区内の市道の整備について

質問：

- ・冬季の除雪について、市道は積雪が15cmを超える場合に除雪が入ると聞いているが、昨年は30cm積もっているにも関わらず除雪が入らなかったため苦情が多かった。
- ・担当部署に電話したところ、現場は見に来たが、別の日に除雪が入るという返事だった。
- ・登別東町第三町会には道道の先に国道も通っており、国道は朝早くから来て除雪を行っている。北海道と市の間で、北海道の除雪が終わったら、市道の除雪をするために除雪車を借りるようなことはできないか。
- ・同じ市内でも地区ごとに積雪量は違うと思う。市の方でどのように把握しているのか。
- ・あらかじめ除雪の地図はもらっているが、除雪が入る時間がまちまちで住民が苦勞している。業者と市、町内会との打ち合わせをお願いしたい。

回答：都市整備部

- ・市内の道路整備については、住民の要望やパトロールにおいて改良工事が必要な箇所を緊急性の高いところから順に整備を行っている。
- ・直近の改良工事予定については、以下のとおり改修工事を行う予定。
 - 登別東町38号線、登別東町5丁目付近を令和3年～令和4年度
 - 登別東町44号線、JCHO登別病院裏付近を令和3年～令和7年度
 - 登別東町14号線、登別東町4丁目付近を令和4年度～令和6年度
 - 登別駅前付近を来年度
- ・昨年の除雪状況の話があったが、来週10月12日に登別市連合町内会と市の担当部署との意見交換の場を設ける予定であるため、その場で改めて意見や要望をいただきたい。
- ・地区ごとに積雪量は違うかと思われる。除雪作業については、状況を確認しつつ作業を進めるといった形で行いたいと考えている。

7 地域の共通課題についての懇談：登別中学校の統廃合に伴う諸課題について

質問：

- ・登別地区の学校区は、登別温泉から富浦まで広い学校区を形成している。
- ・登別中学校は登別の教育の拠点となっており、またその周辺は登別温泉街で働く方の住居地域、商業地域や医療地域、また金融地域も担っている地域で、近隣の虎杖浜や白老からも人が来て、商業として賑わっている地域である。
- ・中学校のあり方について検討している最中であるが、JCHO登別病院やヌプルが建ち、

まちが発展していく中で、どのように人口減少を止め、まちを盛り上げるのか検討しなければいけない。

- ・ 登別東町第4町会の教員住宅跡地の活用についても伺いたい。

回答：総務部

- ・ 現在、全国的に人口減少社会にある状況で、国立社会保障・人口問題研究所によると本市の人口は、令和4年8月末の人口4万5,497人から令和42年には約半数の2万1,906人となると推計されている。
- ・ 登別温泉地区・カルルス地域においては、市内で最も人口減少スピードが緩やかな地区なもの、登別地区・富浦地区は市内で最も人口減少スピードが速く、平成27年の4,983人から令和42年には約3分の1の1,526人になると予測されている。登別中学校の統廃合に関わらず、登別地区の人口減少は避けて通れないものと考えている。
- ・ 国が制定した「公立小学校中学校の適正規範・適正配置等に関する手引」の中で、望ましい学級数として中学校は少なくとも1学年2学級以上必要、3学級以上あることが望ましいとされている。
- ・ また、登別市教育委員会が策定した「登別市学校適正配置基本方針」では学校規模の目安として、中学校は1学年2学級以上、1学級20人程度以上とされており、現在の登別中学校は全ての学年で1学級という状況になっている。
- ・ 昨年、登別市教育委員会では、今後35年間の市内小中学校の配置の在り方をグランドデザインとしてまとめ公表した。現在統廃合について議論を進めているところだが、国や市が掲げる学校規模の目安に比しても小規模化が相当進んでいる状況にあり、今後とも生徒数の減少が見込まれるため、グランドデザインにおいても、登別中学校は隣校の幌別中学校と統合することを想定し、地域の皆さんと話し合いが続けられている。
- ・ 市は人口減少対策の重点戦略として、住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまちを目指すべきまちの姿として「第2期登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。近年は子育て環境の充実を図るため乳幼児健診の検査機器を導入したり、放課後児童クラブの整備などを進めたりするとともに、移住・定住、関係人口の創出に向け、コワーキングスペースの整備や地域おこし協力隊の採用の取り組みの強化を行っている。
- ・ 加え、登別温泉地区・登別地区においては、観光客の受け入れ環境の整備など観光振興に積極的に取り組んでおり、令和5年3月の登別市観光交流センターヌプルのオープンやJR登別駅エレベーターの設置に向け設計を進めているほか、北海道では駅前広場の整備に向け検討が進められている。今年度から登別駅周辺地区のバリアフリー基本構想の策定、登別温泉地区では低速電動バスを導入する予定としている。
- ・ 学校統廃合に伴い、子育て世帯の減少や、若い世代の減少によるまちの活力の低下など、地域の衰退が懸念されることについては、一般的に子育て世帯が住居を選ぶ条件を考えたとき、将来に渡って安定的に収入を得られる働き口があるのか、通勤手段に見合う適度な距離か、近くにサポートしてくれる人がいるかなど、さまざまな要因で居住地を選択しているものと考えている。子育て世帯において、中学校があることで居住エリアを設定する

こともあるかと思うが、どちらかといえば子どもの転校を回避するため、小学校に入学する前までに住む場所を決める傾向が強いのではないかと考えている。また、子どもを持つ親にとっては、中学校でどのような友人関係が構築できるのか、どのような学習環境が提供されているのか、子どもが望む部活動ができるかなど、子どもの将来を考えた上で住む場所を決める方が多いものと考えている。

- ・必ずしも近くに中学校があることだけがこの地域に住むかの判断基準にはならないと感じている。
- ・統廃合の話し合いを進める中で、子どもの数を増やすような取り組みをしたほうが良いというような意見があったが、学校規模の目安を確保するためには、現在の生徒数の2倍以上毎年増加させる必要があり容易ではない。
- ・人口減少対策については、息の長い取り組みが必要であり、その成果も一朝一夕に得られるものではないものと考えている。
- ・市としては、人口減少対策の取り組みと並行して教育委員会を中心に学校規模適正化に向けた取り組みを進めなければならないものと認識している。
- ・最後に、仮に統廃合が決定した場合、登別中学校の跡地利活用について、まちづくりの大きな課題となるが、どのような利活用が可能か民間事業者の意向や登別地区観光まちづくり協議会など地域の皆さんと協議を行いながら検討を進めていきたい。
- ・登別東町4丁目の教職員住宅跡地の活用について、役割を終えた公共施設等に関しては、廃止時に最低限の保全措置を講じているものの、老朽化により周辺環境に危険を及ぼす可能性があるため、計画的に除却を進めていくことになる。
- ・登別東町4丁目の教職員住宅については、今年度除却の予算を計上しており、今年度中に除却を完了する予定。
- ・今後については、公共用地として活用しない場合は、民間への売却なども検討していく。

7 地域の共通課題についての懇談：

情報発信拠点施設／観光交流センター供用開始について

質問：

- ・観光交流センターが令和5年3月から供用開始となるが、仮設駐車場の設置や登別駅前広場の新築状況について考えを聞きたい。
- ・婦人センターの跡地利用についても、民間企業への売却も含め考えを伺いたい。

説明：観光経済部

- ・観光交流センターについて、今月下旬に建物の引き渡しを受け、令和5年3月1日のオープンに向け施設内の備品の整理等の運営準備を進める予定。
- ・施設は1階に観光案内所、物販、テナントスペース、登別支所などが入り、2階は貸館となっている。屋上スペースについては、常時開放する予定はないが地域のイベントなどでは活用可能。
- ・施設の特徴としては、市民の皆さんもちろん観光客の訪問も想定されるため、観光・情報

の発信、手荷物の預かり、発送レートサイクルなどの実施も想定している。

- ・ 駐車場については、仮駐車スペースの整備を予定。また、令和5年度より外構整備を予定している。
- ・ 駅前広場の整備計画については、室蘭建設管理部登別出張所に確認したところ、現在、JR、国など関係機関と協議を進めながら今年度中の事業認可の取得に向けて事務を進めていると聞いている。
- ・ 婦人センターの跡地の利活用の見通しについて、現時点では具体的な活用は決まっていない。民間企業の提案を聞くということも考えているので、跡地を有効活用できるよう庁内で慎重に検討を進めていく。

質問：

- ・ 登別駅を出てすぐ整備されていない草木が目に入る。市内を見渡すと20～30年草刈りが行われていないような土地がたくさんあると思うが、例えば5年に1回、土地所有者に草を刈ってもらえないかお知らせを市からすることはできないか。
- ・ 登別東町一町会に草木の整備がされていない土地があり、市の担当部署にお願いをして、土地所有者に連絡してもらったところ、すぐに土地所有者が対応してくれた。
- ・ 市民からの連絡を待つのではなく、市が整備する予定はないのか。
- ・ 道路の整備に関して、側溝が全く整備されず、泥が堆積している。
- ・ 取水口はあるものの整備がされていないため役割を果たしていない状況。全市的に取水口の中を掃除することはないのか。

回答：市民生活部

- ・ 空き地の繁茂、草木の繁茂に関しては、市民の皆さんから相談があれば土地所有者を担当と確認しながら、強制力はないものの土地所有者へ市民から相談が来ている旨、郵送で連絡している。
- ・ 市が各地区の繁茂の状況を確認することは現実的に非常に難しいため、基本的には市民から通報や相談があった都度、このような形で対応を行っている。
- ・ 令和5年4月に竹木の切除を規定する民法の改正が予定されており、例えば自分の土地に隣地の枝が入ってきている場合に自分の土地に侵入している部分については刈ってもよいというような改正が予定されている。
- ・ 課題の根本的な解決には至らないが、連絡があれば迅速に対応していくことをお伝えする。

回答：都市整備部

- ・ 道路の側溝について、市道の総延長は約330kmあるため、道路のパトロールを委託しているものの、全部を見きれない状態ではない。配布資料にもあるように、QRコードを読み取ってスマートフォンや直接電話でもかまわないので、随時連絡をいただきたい。

その他

質問：

- ・ 登別中学校の統廃合の件で2つ質問がある。そのほかは回答不要。
 - 登別温泉の観光業は登別市の基幹産業と考えているか。
 - 近隣のライバル観光地である洞爺湖、定山溪の小・中学校の状態は知っているか。
- ・ 現在、定山溪は一貫校を目指して計画している状況。
- ・ 登別温泉の現状は小学校も中学校もなく、登別中学校も今回統廃合という話が出ている状況であり、ライバル観光地よりも教育インフラが劣っているのがわかる。
- ・ お子さんがある中間管理職を採用しようとしても、教育のインフラが劣っていれば採用することができず、人手不足、人材不足が起こり、ひいては入湯税や市民税の歳入減になる。
- ・ 特に大変なのはカルルス地区。登別中学校の統廃合となると、公共交通機関の問題も発生する。
- ・ 統廃合がなければこのような問題は起こらないのではと考えている。

回答：市長

- ・ 登別温泉の観光業は登別市の基幹産業と考えている。
- ・ 洞爺湖はある程度把握しているが、定山溪は把握していない。